

『令和6年度 佐賀市部活動地域展開会議』（第2回）
会 議 録

開催日	令和7年3月19日（水）	
開催時間	午前9時30分～午前11時30分	
開催場所	佐賀市役所大財別館4階 4-3会議室	
出席者	委員等	井上委員、段林委員、伊東委員、眞崎委員、石橋委員、坂井委員、池上委員、堤委員、代田アドバイザー
	事務局等	丹宗教育長、堤教育委員（教育長職務代理者）、山田教育委員、槇原教育委員、大松教育部長、横田副部長兼教育総務課長、青柳学校教育課長、川副学事課長、北島社会教育課室長、江頭スポーツ振興課長、武藤歴史・文化副課長、（オブザーバー）島 SAGA 部活推進総括コーディネーター（県教委）
議 事	<p>（1）実証事業の実施状況報告</p> <p>①学校部活動適正化モデル（佐賀モデル）について</p> <p>②地域クラブ活動型モデルについて</p> <p>（2）今後の進め方について</p> <p>（3）意見交換</p>	
欠席委員	渡瀬座長、水町委員	
傍聴者	1名	

議 事

1 開会

(事務局)

- ・本日は、渡瀬座長と水町委員がご欠席。
- ・渡瀬座長がご欠席のため、佐賀市部活動地域展開会議設置要綱第5条 第3項において、座長に事故があるときまたは座長が欠けたときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代理すると規定があり、第1回会議において井上委員が指名されている。今回は井上委員に座長をお願いする。

2 座長あいさつ

(座長代理)

- ・渡瀬委員がご欠席ということで、急遽、座長を務めることになった。至らない点もあるかと思うが、よろしくをお願いしたい。
- ・本日は、今年度の取組についての報告、次年度に向けての提案等があるので、委員の皆様から活発な御意見をいただきたい。

3 協議

(1) 実証事業の実施状況報告

① 学校部活動適正化モデル（佐賀モデル）について

(事務局)

資料2-①に沿って、佐賀モデル（佐賀市学校部活動適正化モデル）の成果と課題について報告

(座長代理)

この佐賀モデルの取組については委員の中にも指導者派遣の形で参画していただいた方がいらっしゃるので、ご意見、ご感想等あればお願いしたい。

(委員)

- ・私のチームの選手が、今回1日参加させてもらった。
- ・1日で技術が上がるわけではないが、子どもたちは、専門家から指導してもらおうという体験をできたのはすごくよかったと思う。
- ・一度、部活に入ると、なかなか外の世界を見ることができない。同じ学校の他の部活や同じ種目でも他の学校が何をしているのか見えない。その中で、地域クラブの専門家が教えるということは、どういったことかということを知るきっかけになったと思う。
- ・自分で主体的に取り組むきっかけになり、今後、土日の部活動が外部の団体に移行していった際のワクワク感をもてたのではないかな。
- ・今回指導したのは、陸上部ではなかったが、もし今後、陸上部で顧問の先生があま

り専門的な知識や技術がないという学校を集めたりして、このような機会を設定すると、動画を撮ってもらったりとか、子どもたちが話したことや取り組んだ練習メニューとかを自分たちでメモしたりすることで、平日の部活動にも生かせる。

- ・そういったことができれば、技術も上がったり、部活動に対する満足度が上がったたり、子どもたちが主体的にメニューを考えたりできるようになり、結果的に教員が平日指導していく際の負担を軽減することにつながると思う。
- ・今回の指導では、質の高い指導に対する適正な対価の重要性も感じた。今後、地域移行が進んでいく過程で、公認指導者も含め、指導者の質と量を担保していく際に、この謝金の部分は切り離せない。
- ・これまで教員や地域の方がほぼボランティアでされてきた部分が当たり前ではないという価値観の転換も含め、今回、指導する側として参加させてもらい、適正な対価があることで、指導する側にとっても満足度が高い取組だったと思う。

(座長代理)

子どもたちがなかなかトップアスリートから指導を受ける機会はないと思う。

そういう意味でもいい取組だったのではないか。

それでは、次に地域クラブ活動型モデルについての報告をお願いしたい。

② 地域クラブ活動型モデルについて

(委員) 資料3に沿って報告

- ・17、8年前に大学でユニキッズという地域事業の一つとして子どもたちにいろんな事業を提供しようという取組があり、附属中に野球部(佐賀大学ベースボールクラブ)を作った。
- ・令和5年度、部員が足りず、東与賀中と合同部活の形で練習や試合に出ていた。
- ・令和6年度は、単独チームでもできる人数になり、中体連規定では、新チームになる時点で解散となるのだが、解散せずに最後までやりたいという声があった。
- ・そのタイミングで佐賀市から地域クラブ活動モデルのお話をいただき、夏までは、中体連に部活動として参加していたが、今年度の中体連以降は、社会体育のクラブチームとして参加することとなった。今回の報告は社会体育のクラブチームとしての活動の報告となる。
- ・クラブの母体は、NPO法人スポーツフォアオール。高齢者の健康教室も立ち上げたNPOで、このNPOにぶら下がっているチームとなる。
- ・「指導者の質の保障、量の確保」だが、大学教授の私に加え、これまで市内中学校で軟式野球部の監督をされていた方を兼職兼業でチームに招き入れた。また、学生や大学まで野球経験があるコーチ陣が揃っていたため、生徒・保護者からは満足度が高い結果が出ている。
- ・ただ、一部は不満の声もあり、新しい指導者の指導方針との違いに違和感をもたれた方もいる。
- ・活動は、平日も含めて社会体育で行っており、月・水・土日のどちらか(大会前は

- 土日両日) でやっており、活動日数についても、満足度が高いと結果が出ている。
- ・我々のチームだけでなく、他のチームにも趣旨を展開したいことから、子どもたちが主体的に取り組むような競技会をつくりたいと思い、昨年度から育成リーグを始めたところ、多くのチームに参加していただいた。
 - ・特別ルールをつくり、監督はサイン・指示を出さず、ポジションは選手主体、1試合全員が出場するというルールをつくったところ、子どもたちだけで話し合っ取り組んでいる姿が見られた。
 - ・「参加費負担」について、一番かかるのが指導者の謝金。試算は、仮に5人で指導して、週8時間で、45週指導した場合、288万円。他にもボールやバットの費用が掛かるだろうということで試算している。部費だけでやっていくのは難しい。
 - ・現在、部員26名(新2、3年生)。近隣の中学校や保護者へ、クラブの取組についてパンフを配った結果、思った以上に部員が集まり、20名で打ち切りとした。部員数が新年度からは45名になるが部費4,000円とすると、216万円程度となり、試算総額の380万と比較すると不足する。指導者謝金を考える必要がある。
 - ・総括として、中学校の部活動と比較しても、地域クラブで活動を行ってよかったという数値が出ている。一部は附属中で行っていた時と規模が違うことから戸惑いの部分も見られるが、概ね満足度が高い。
 - ・課題として、部活動と地域クラブとの違いを保護者へ理解してもらうことに時間がかかる。
 - ・年度途中で1つのクラブチームとして形成することになり、ユニフォーム等を合わせるための経費がかかった。
 - ・中体連の大会では地域クラブが市の予選に参加できない縛りがある。いろいろ考慮していただいている大会もあるが、今後は、クラブチームとして全ての大会に参加できるようになれば、さらに盛り上がるのではないかと。

(委員) 資料4に沿って報告

- ・諸富ベースボールクラブは、学校部活動と並行し、週末に地域クラブとして運営。
- ・年間の事業スケジュールとして、令和6年5月に設立発起人会を組織したが、野球部の地域移行をするための発起人会ではなく、諸富中学校の部活動全体を受け入れるための団体を設立しようということが目的。
- ・学校と情報交換していく中で、全競技を一度に移行するのは難しいと判断し、まずは野球部を地域移行するところから始め、地域移行のロールモデルとしようというコンセプトでスタートした。
- ・地域展開をするプロセスとして、部活動の拠点校方式があり、近隣の中学校の野球部の現状から、川副中学校は部員数も少ないということで、諸富中と一緒にできないかという話があった。
- ・諸富中には諸富北小と諸富南小の子どもたちが進学してくる。諸富北小の少年野球チームでは、芙蓉校小学部の子どもたちと一緒に活動をしているが、芙蓉校中学部には野球部がないため、中学校でも野球をしたいという希望に応えるために、拠点

校方式を取り入れた。

- ・令和6年度の夏の中体連後から、川副中と芙蓉校の子どもたちも参加できるよう、平日は諸富中学校を拠点校として活動している。
- ・まずは運営体制の整備から着手し、役員の構成やどのような方針で指導・運営にあたるのかを、発起人会で話し合いながら進めた。教育委員会からも紹介してもらったアプリを導入し、参加者の出欠の管理などを行った。今後、活用の幅を広げていきたい。
- ・部活動の受け皿という点では、学校との連携が欠かせない。道具の借用については保護者に、活動場所の確保等は学校に協力をお願いしている。
- ・保険、補償の問題。個人の補償はスポーツ安全保険でできたが、団体として賠償を担保できる保険が必要。地域の運営主体に移行した場合、国家賠償から外れる。どのような補償が必要か検討し、現在加入している保険に行き着いた。
- ・町内外に諸富中のOB等が在住しているので、直接アドバイスや指導していただく環境があることを最大限に利用し、運営団体への加入、指導者としてのライセンス取得もしてもらい、参加してもらった。
- ・今後の課題は、指導者の質と量。地元のOB 在住者に指導に入ってもらえる方がいないかを探しながら、クラブの仕組みについて丁寧に説明を行っている。
- ・指導者の質を担保するため、規約でも公認指導者資格 U15 の取得を促進し、県教委主催の研修会にも参加してもらい、指導者の質の担保を行っている。
- ・量の確保として、まだ不足しているが候補者のリストを作成し、さまざまな方面から情報収集を行い、スタート時点の指導者は確保できた。
- ・保護者とも協議したが、なぜ地域移行しないといけないのかという意見もある。スムーズな移行ができるよう、できる限り保護者の意見も取り入れている。
- ・内容の充実のため、クラブ代表者の発案で諸富町では8月9日を野球の日として、この前後でいろいろな事業を展開していけないかと意見があった。前段階として、今年度は、県教委が主催した SAGA 部活スペシャルサポーター事業で社会人野球に指導していただいた。
- ・小6の子どもたちを対象に体験会も実施し、新規部員の確保に努めてきた。
- ・取組の成果としては肯定的な意見のアンケート結果が出ており、8割以上の中学生が満足していた。
- ・週8時間の活動時間については、「ちょうどいい」という意見が多く、概ね満足度が高い結果が出た。
- ・今後は、8月の野球の日前後に、小学生から社会人・大学生を集め、イベントを開催して野球に興味をもってもらう取組を考えている。子どもたちの主体性を生かし、地域貢献活動も取り入れたい。
- ・参加費用負担の支援として、現在中学校の部費は月3,000円で運営しているが、クラブとしては実証実験のため部費はいただいていない。今後、自走していくには月8,000円が必要という試算になった。
- ・自主財源で運営するのが理想ではあるが、あまり保護者負担にならないようにした

- い。補助金があっても、段階的に減らしていけるような方法がいいと思う。
- ・アンケートの結果では、地域クラブへの満足度は8割の生徒が満足している。顧問は100%。保護者は「不満である」が半分。分析すると、活動内容が見えにくいということがあげられる。
 - ・子どもたちに影響がないよう、今までの顧問の先生が兼職兼業で、地域の指導者として登録してもらったが、あまり違いが見えないことから、部活動からクラブに移行する際のメリット、デメリットを実感しにくかったのではないかと感じる。
 - ・競技力の向上で不安をもっている保護者もいる。8時間という活動時間で練習の質と量をどう担保していくかを見直す必要がある。
 - ・私も、自宅から学校が近いため、平日の練習も見学に行くが、工夫すれば短い時間でも質の高い練習ができると確信している。今後、保護者の声も大切に、満足度を高めていくことは課題。
 - ・諸富中のOBに指導にきていただいた。地域クラブだからこそ提供できるこのような機会を通じて、新しい価値を提供していけたら。

(2) 今後の進め方について

(事務局)

資料5に沿って、令和7年度の佐賀市部活動地域展開の進め方について提案。

(3) 意見交換

(座長代理)

ここから意見交換に入りたい。事務局からの今年度の報告や次年度に向けての提案を受けて、委員の皆さまが所属されている団体等のお立場で、まずは佐賀モデルからご意見をお願いしたい。

(委員)

- ・学校という部分と校長会の部分でお話させていただきたい。
- ・本校は運動部と文化部をあわせて16の部活動があり、全校生徒の約7割が加入している状況。2割は社会体育で、学校外の何らかの競技団体で活動している。
- ・今後、子どもたちの数も減り、教員の数も減ると部活動顧問の数も減っていき、部活動の数も減っていくことが予想されるが、子どもたちの活動の場を減らすことは避けたい。
- ・マスコミの報道もあるが、部活動の顧問の成り手不足や「休みたい」、「家族との時間を過ごしたい」という先生方の声もあり、顧問をお願いしにくい現状。
- ・地域の方にもお願いはするが、率先して手を挙げていただける方は少ない。
- ・校長会としては、一部だけで佐賀モデルを実施しても学校や保護者、生徒から不満の声が聞こえるのは間違いない。佐賀市の全中学校で実施すると、不満はなくなると感じている。ただ、質の高さを求められる部分もあるので、支援をいただきたい。

(委員)

- ・佐賀モデル指導者派遣でも紹介したが、うちのチームには、競技に精通した指導者がたくさんいるので、佐賀モデルの質の向上や専門外の顧問の先生へのサポート体制構築という意味で指導者の派遣等を通して貢献できる。

(委員)

- ・部活動の地域展開が着実に前に進んできているという実感はあるが、保護者や子どもたちのニーズを考えたときに、前に進めていきたいという部分と今のままがいいのではないかとこの部分がどうしてもある。
- ・学校現場は、教員の大量退職世代に入っており、私の学校の場合、来年の教員の年齢構成で50代以上が約半数を占める。退職後もフルタイムではなく、短時間勤務が増え、6名中4名は短時間勤務。部活動に従事できる職員が少ない。
- ・この会議に参加して、佐賀市の中学校部活の改革として進めているが、広い視点で見ると、小学校や高校はどういう視点を持っているのか等、今後は、中学校だけでなく、小学校や高校でも同じ方向性を持ってやっていただきたい。
- ・小学校の社会体育やクラブチームでは、1月や2月でも練習試合する中で怪我をしているという話も聞く。高校では中学生時との活動量の差で不安を覚えるようなことも考えられ、小学校や高校と連携が必要である。
- ・今年度は国スポがあり、佐賀県は総合2位となり成功した。国スポは終了したが、子どもたちの頑張りやモチベーションは支えていく必要がある。
- ・全国中体連でも競技によっては全国大会もなくなっている。令和7年度以降は、クラブチームの枠を増やしていき、さらに様々なチームが参加できるよう議論も進んでいるので、大きな転換期になっている。

(委員)

- ・県吹奏楽連盟では小・中・高・大・一般の部とあるが、なかなか進んでいない。
- ・指導者の質と量が取り上げられていたが、大学で吹奏楽がある佐賀大学と今後連携をしていきたい。
- ・今日報告いただいた地域スポーツクラブのように、大学生や小学校教員ともつながり、指導者の確保に努めたい。
- ・保護者見守りのもとで練習したいが、土日学校を開けて、保護者だけで見守って活動するのはセキュリティの関係で厳しい。経験者がいればいいが、指導者の確保も懸念される。

(委員)

- ・スポーツ少年団では、7月31日から8月3日まで全国大会を佐賀で行うようにしている。現場で対応するのが中学生で、現在生徒を20名ほど集めている。
- ・白石町スポーツ少年団あるいは白石アスリートクラブが、運動部活動と連携している事例として全国スポーツ少年団広報誌で紹介されている。

- ・障がい者のみなさんも一緒に活動されており、スポーツ少年団が中心となった、すばらしい総合型スポーツクラブの運営事例として紹介する。

(委員)

- ・この会議に参加するようになった2年間の市スポーツ協会の取組概略を説明する。
- ・市スポーツ協会として、現時点で期待される役割は、地域クラブ等の情報発信や生涯スポーツをはじめとした体験型イベントの開催である。
- ・情報発信については既に市のスポーツ振興課と資料を共有し、ホームページに掲載されている。イベントについては、既存ではあるが、在住外国人のスポーツ交流会を開催し、若干ながら中学生の参加があった。
- ・一昨年から、小学生までを対象に、親子で楽しむ野球体験教室を開催し、地域交流の一環として中学校の野球部に運営を協力してもらい、生徒や学校からも前向きな意見をいただいた。去年は、地元企業やプロ野球選手にも参加していただいた。
- ・スポーツ協会の中で、中学生が参加しているのは、弓道とカンフー教室のみ。
- ・教室の見直しを検討している中、個人参加型の卓球教室を開催。100名ほどが集まったが、中学生は一桁。広報等が十分でなかった。
- ・今後は、高校生や大学生に講師をお願いし、世代間交流や次世代のリーダーの育成につなげたい。また、中学校入学前の子どもたちへニュースポーツなどの出前講座なども開催できればと思う。

(委員)

- ・質問をよろしいか。
- ・実証事業で、運営の事務や人材の確保、財源、費用負担等の課題が浮き彫りになっている。地域の受け皿が立ち上げやすくなる環境づくりや人材育成は行政の役割だと思う。
- ・実証事業で取り組んでいただいている団体や先進都市の取組を参考に、持続可能な制度設計を行政主体でやっていただきたい。
- ・佐賀モデルは、教育委員会でリードしつつ、今後は、地域型クラブを支える官民連携の会議体を立ち上げて取り組んでいく必要があるのでは。事務局で何か考えがあるのか。

(座長代理)

今の質問は、今日の会議を総括するような回答になるかと思うので、最後にまとめて事務局のほうから回答いただきたい。

今後の展開のポイントとして、保護者や競技団体などいかに広報していくかということも課題となる。この点についてPTA、県教委のほうからお願いしたい。

(委員)

- ・2月18日に福岡県のシンポジウムに参加。県自体が国から重点地域と指定されて

おり、予算規模が大きく、行政との結びつきが強い。規模感が大きいと感じた。

- ・今後、佐賀市として周知・広報をどう進めていくかということで、地域移行をしなければならなくなった背景を、もう一度教職員の皆さんに共通認識として、周知してもらいたい。また、保護者に対してもダイレクトに伝えてほしい。
- ・おたよりに加え、学校の PTA 総会や市 PTA 協議会の役員会などに事務局から説明をしてもらえたら。
- ・地域クラブを運営する中でも、保護者の理解が進んでいない。しかし、地域の間が地域の人に説明すると誤解を招くため、事務局からダイレクトに説明してほしい

(オブザーバー)

- ・佐賀市の取組は生徒の声をよくつかんでいる。県内 20 市町、ほとんどの市町でアンケートを実施しているが、1 町で 1 校、2 校など小さいところが半分。大きいところは佐賀市、唐津市ぐらい。
- ・佐賀市は、アンケートで子どもの声を吸い上げ、実践のモデルをつくり、その後、実践、事後アンケートを取り、アップデートしているプロセスがいい。
- ・県では、来年度も指導者の育成や発掘、部活動指導員の事業、国からの実証事業を展開していく。
- ・広報が足りない部分は、課題とっているので来年度はそこにも力を入れていきたい。また、いろいろな場に参加させていただき持続可能な部活動展開にしていきたい。

(座長代理)

それでは今年度も佐賀市のアドバイザーとして協力いただいている代田アドバイザーから、今後の取組についてのお話をいただく。

(アドバイザー)

- ・佐賀モデルを中心とした佐賀市の部活動改革は順調に進んでいる。月に 1 回、教育委員会の担当者とオンラインで進捗会議を行っている。
- ・教育委員会担当者の役割は非常に重要。100 年ぐらい続いてきた部活動を改革するにあたっては、どうしても現場と教育委員会の乖離が起こってしまいがち。
- ・行政が改革する中で、丁寧に学校に通われて理解を得ながら進んでいる点は最も評価できる。20 万都市でこれだけのアスリートやクオリティの高い指導者がいるのは珍しく、連携もうまくスタートしている。
- ・また、子どもたちからのアンケートを行い、課題を見つけながらも、一步一步確実に進んでいると思う。
- ・私からは、総括的なところと国の動きを説明したい。
- ・「自分の最高を引き出す主体性」として、「自己決定能力の 5 段階」というものがある。

- ・「親に言われたからやる」⇒「やらなければいけないからやる」⇒「やりたいからやる」。だんだん主体的にやりたいと感じると、自己の主体性は発揮される。
- ・さらに「楽しいからやる」という段階は、主体性よりも上の「内発性」と言われる。
- ・楽しいからやる。その自己決定の段階を高めていくことが大事で佐賀モデルはこのような子どもたちを育てようとしている。教育長からも話があったように、子どもたちの主体性を高めるという教育全体の方向性を見ても、この佐賀モデルはチャンスと捉えてよい。
- ・2年前の子どもたちのアンケート結果をみると、自分たちで決めているが3割。ほとんど先生が決めていた。残りの7割の中でも、自分たちで決めたいという人たちが多く、今の部活動は自己決定をしていないのが課題である。
- ・先ほど委員からの話でもあったように、トップアスリートが身近にいて、サポートしてくれる環境は佐賀市の強み。
- ・今後は教育基本計画にも主体性が打ち出されるとのこと。地域も含めて教育全体で同じ方向性をもって進めていくということがとても大切。
- ・自己決定をすることによって自己肯定感が高まる。佐賀モデルは8割の子どもたちが取り組みたいと感じている。来年度から全中学校で展開できる。子どもたちや先生も理解していくことは大事だが、一部の「取り組みたくない」という子どもたちの声を分析し、改善を図っていくとよい。
- ・国の動向として、昨年12月に中間取りまとめが出され、地域移行を「地域展開」に変更するとなった。佐賀市は一步先、言うなれば、ようやくスポーツ庁も佐賀市の考え方に追いついてきたというぐらいの認識でいいと思っている。
- ・なぜ「地域展開」に変更したのかは共通理解した方がよい。学校内で運営されてきた活動を地域全体で支えていくために、単にスライド移行ではなく新しい価値を生み出すことが大切である。
- ・今後の課題は様々であるが、スポーツ面だけでなく文化芸術活動をどうするか。さらに、幼児から高齢者までの社会教育と捉える必要があり、そこには小学校のスポーツ少年団の問題、高校生の問題等、連携して行わないと中学生だけでは大きな改革にはならない。
- ・部活動を地域にスライド移行ではなくアップデート移行していく。さらに、新たなコンテンツを加えていくことが地域展開の理想。1日限定の体験型の多種多様な体験活動を加えることで、結果的に指導者も入りやすくなる。
- ・行政側だけでなく、それぞれの立場で子どもたちに関わるということを理解して、子どもたちのにとって豊かな文化・スポーツ環境を整えましょう。

(座長代理)

先ほど委員から質問があったので事務局のほうからお願いしたい。

(事務局)

- ・地域クラブの運営事務、人材の確保や指導者の確保、費用負担の在り方整備など多

くの課題がある。

- ・スポーツ振興課では、総合型地域スポーツクラブ連絡会と市スポーツ少年団事務局がある。その会議でも地域展開について説明しているが、受け皿としてどういう役割を担っていけばいいかと質問がある。
- ・3月1日に開催した、スポーツ指導者保護者研修会の中でも、保護者の不安の意見が多く出た。
- ・この課題を解決するため、スポーツ振興課では令和7年度にスポーツで地域課題を解決する取組として、専門的な人材や運営ノウハウを持つ新たな組織づくりとして、スポーツミッション検討している。
- ・スポーツミッションはスポーツを通して、地域住民と関連団体の連携やまちづくり等、貢献する組織づくりを目指している。
- ・今後は、教育委員会と競技団体で連携しながら地域クラブの立ち上げや運営の支援ができるような中核的な役割の組織づくりを研究していきたい。

(座長代理) 総括

- ・検討をはじめた1年目のアンケート調査で驚いたのは、顧問の先生方約7割が休日の指導を希望しないという回答結果。
- ・当事者として、実証実験に参加させてもらい、新しい分野が増えてきている。また、アンケート結果からも軌道に乗ってきていると感じている。
- ・問題となるのが財源の問題。NPOでクラウドファンディングも検討しているが、いろんなクラブにもお手伝いできればと思う。しかし、NPOだけで判断は難しいため、行政と連携し、財源を確保する方法を考える必要がある。
- ・もう一つは人材面。私のクラブも学生が関わっており、諸富ベースボールクラブにも学生が1名関わっている。今後は個人的な関係ではなく、市教委と佐賀大学で協定を結ばせていただきたい。
- ・市教委には教育実習でお世話になっているので、逆に大学側から市へ何か提供したいと考えている。
- ・うちのクラブでも新1年が20名ぐらい集まったが、逆に言えば、学校の部員が減ることとなる。今後は地域を拠点とした社会体育などの形が必要。保護者もそういったものを求めている。

(閉会)